いそ観察

概　要		青少年の家周辺の豊かな自然環境を生かし、高汐海岸の磯場や干潮時の干潟に生息する様々な生き物を観察させることを通して、海辺の自然に親しませるとともに、自然への関心を高めさせる。
ねらいとして 考えられること		① 海辺の生き物を観察することを通して、自然に親しむことができる。 ② 海辺の自然への理解を深め、海と人間との関わりや自然の大切さについて学ぶことができる。
対　象		幼児から
人　数		１か所につき４０人程度
場　所		尾崎海岸磯場または高汐海岸の左右の磯場
時　間		干潮の前後１時間～２時間程度
指導員		一部指導（開始前に説明あり）
活動時期		４月～９月下旬（天候に応じて１０月上旬まで）
経　費		なし
事前に準備確認するもの		軍手、濡れてもよい靴、帽子、飲料水、タオル、救急用具、観察用網、バケツ（日焼け対策として薄手の長袖シャツ等あるとよい）
引率者の役割	活動前	① 所員と活動内容や活動場所について打ち合わせを行う。 ② 参加者にトイレを済ませるよう指示する。 ③ 活動開始５分前までに参加者を集合場所に集める。 ④ 所員から活動内容や注意事項について説明を受ける。 ⑤ 活動に必要な道具を配布する。
	活動中	① 危険な生物や見慣れない生物には触れさせない。 ② 集団行動を心がけさせる。 ③ 適宜、水分補給やトイレ休憩を促す。 ④ 磯場では泳がせない。 ⑤ 堤防及び取排水溝周辺には近寄らせない。 ⑥ 周辺の動植物を大切にするよう指導する。
	活動後	① 採集した生き物を元の場所に戻させる。 ② 使用した道具の数量や状態を確認する。 ③ 海と人間との関わりや自然の大切さについて話をする。 ④ 人員点呼を行い、参加者全員の安全を確認する。 ⑤ 観察用網とバケツを洗浄し、元の場所に返却する。
安全上の留意点		① 磯場や岩場では、水が濁ると足元の状況が確認しにくく危険なため、泳がせない。 ② サンダルやスリッパ（クロックスは不可）は使用させず、滑りにくく脱げにくい履物を履かせる。（マリンシューズ推奨） ③ 磯場では走らせない。 ④ 危険な生物や見慣れない生物には触れさせない。 ⑤ 適宜、水分補給を促す。左側の磯場への水筒の持参はできるだけ避け、持参する場合は堤防付近の安全な場所に置かせる。
その他		